

あ……………
申し訳ございません
ご主人様……………

玉の裏まで
丁寧な奉仕
しなさい

はい…
仰せのままに

私……………
また失敗して
しまって……

っ……そう……
先っぽを
なぞるように

あ……疲れたら休んでいいからね

……………
……………
……………
むう

だに
だに
ダメなメイドには
お仕置が必要だね
……こっちに來なさい

は……………はい

……先生……私達は今
「意地悪なご主人様」と
「逆らえないメイド」
なんです……

……そういう
シチュエーション
なんですから……

ちゃんと役に
なりきって下さい

ごめん……



んげんば!

ッ
ッ

……よし



スィッチ
入れるから

ちよっと
待ってて



んげんば!
んげんば!
んげんば!

……もっと
喉奥使って



んげんば!
んげんば!
んげんば!

……歯は
立てるちゃ
ダメだよ



……はこ



——ほらミドリ
休んでる暇無いよ

ケホッ
ケホッ



んげんば!
んげんば!
んげんば!

あゝゝ
出る出る



やるなら
もっと…

こうでしょッ

ダメダメ

いかがでしょうか
ご主人様……

うーん

…そんなんじや
いつまで経っても
終わらないよ？



苦し……ら……



……お腹……
押し潰され――



ごめんミドリ…
大丈夫だった？ へい

…えっと…はい…
…というか…

…また…
お願いしても
いいですか？

…
…